

# 特別支援教育部会

## 平成29年度 1月例会報告



参加人数	28名	
今回1月例会	協議内容	<p>内容：講義「特別支援教育における消費者教育のすすめ方」  会場：千葉市立畑小学校  講師：消費生活センター  消費者教育コーディネーター 庄司 佳子様  消費者教育班 宮内 博道様</p> <p>1 講義「特別支援教育における消費者教育のすすめ方」  ○消費生活センターへの障害者等に関する相談件数は年々増加している。  ○平成24年度に「消費者教育推進法」が閣議決定され、消費者には消費者教育の提供を受ける権利があることが明記されている。(対象は大人から子供まで)  ○将来の変化を予測することが困難な時代に生きる子供たちに必要な力を育む必要がある。(①どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか②何を知っているか何ができるか③知っていること、できることをどう使うか)  ○特別な支援を要する子供へのお小遣いについて  ・消費者教育は家庭での実践が重要。お小遣いを自分で管理する経験をさせるべきである。その際の工夫として、貯金箱を作り、目的別に分けるとよい。  (例：①自分のために使うお金 ②少し貯めて買うための貯金 ③大きな買い物をするための貯金 ④誰かのために使うお金)  ・貯金箱は中身が見えるよう透明な瓶(ジャムの空き瓶など)がよい。  ・実例としてアメリカなどの海外では、幼児期から「寄付」について理解させている。  ・お金の勉強をする際は可能な限り本物の硬貨、紙幣を使うことが望ましい。</p> <p>2 質疑応答・情報共有  ・巻き込まれやすいトラブルについて・・・  ある特別支援学級出身の子で、初任給で親に大変高価なアクセサリ(給料に対して高価すぎる)を購入した子がいた。  この場合返品ができたが、場合によってはできないこともあるため、消費者教育の大切さを痛感する出来事だった。  ・消費生活センターの「お小遣い帳」をぜひ使ってほしい。自分でためたお金をどう使うか考え、実践する体験、習慣が重要。</p>
次回月例会	会場	
	内容	授業研究

# A-2

1月例会

参加人数 46人

会場：千葉市立新宿小学校

## ○教材・教具紹介

・算数で、300までの数を正しく数えるためにカラーリングや青い星形の粘土おはじきを用意した。また、10や100などを単位としてそのいくつ分とみることができるように、10（100）のまとまりを作りやすい教具を作った。



・生活単元学習「げんきキャンプへ行こう」で、お風呂の入り方について学習するため、シャワーや鏡、桶などの教材を作り一つずつ確認しながら行った。



・図工の学習で、盆景に挑戦した。身近な材料を使用して、山や岩・木などを作った。手先を使った活動が苦手な児童でも、本物の景色に似た作品を作ることができて、達成感を味わうことができた。



・体育の表現運動学習「ジャングルたんけん」に取り組み、一人一人にイメージを強くもたせるための手立てをした。身近で表現しやすい曲で動物やもの、人を真似した。ジャングルカルタを用意して、児童の実態に合わせて選べるようにした。実際に体験したり、掲示物を工夫したりすることで、興味をもって取り組めた。



※この他にも、各学校から紹介して研修することができました。冊子も30ページにもなる教材・教具集ができあがり、今後の授業ですぐ役立つことができそうです。

教材、教具の資料作り、また、1年間市教研に参加ありがとうございました。

※なお、これらの「教材・教具」は cabinet の校務システム→①千葉市全体フォルダ→②「全体共有」→③「全体 教諭共有」→④市教研特別支援教育部会 A-2→⑤H29 教材教具の紹介に掲載されています。ぜひ、ご覧ください。

1月例会	21人	会場：草野小学校
<p>○千葉県教育研究集会の報告を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提案者 秋葉 泰博 (さつきが丘中)</li> <li style="padding-left: 2em;">横山 直子 (花園中)</li> <li>・提案名「提案資料を基にした県教研の報告」</li> </ul> <p>○意見・感想</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導について日頃考えていること、不安に応える内容をまとめてくれて勉強になった。</li> <li>・他の支部で取り組んでいることも知ることができ様々なことに興味を持つことができた。</li> <li>・卒業生の進路先を見学し、在校生への進路学習をより深めたい。</li> <li>・今年度、中学校全体で情報や資料を共有していこうという取り組みがとてもよかった。</li> </ul>		

Cブロック	1月例会	参加人数 30人	会場：高洲第三小学校
<p>1 全体で アンケートについて 諸連絡 県特連で研修 ことばを育てる親の会について 養護教諭連絡会について 市特協について</p> <p>2 グループ協議 事例検討会 ことばの教室（2グループ）きこえの教室（1グループ）計3グループにわかれてそれぞれ話し合った。 グループ①2年男児 歯間化構音 グループ②2年男児 歯間化構音 グループ③県特連聴覚部会提案について 助言者 高瀬景子先生（養護教育センター）</p> <p>&lt;グループ①&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラ行ダ行の誤りがあることについては口の周りの緊張をほぐすとよい。</li> <li>・歯間化構音の指導については奥歯をしっかりとかみ合わせることが大切である。</li> <li>・歯間化構音の指導が先か、構音指導が先かという話題については、それぞれの担当者の経験談を出し合った。</li> <li>・文字から正しい言葉を覚えられるように、絵カード・文字カード・音のマッチングが必要である。</li> <li>・助言者の先生も一緒に中に入ってアドバイスをくださった。</li> </ul> <p>&lt;グループ②&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ストローを用いるなど呼気をまっすぐ出せるような練習方法を取り入れるとよい。</li> <li>・発語器官の特徴は子供ひとりひとり違うので、その子に合った発音の仕方を習得させることが大切である。</li> <li>・指導終了までの道のりを話し、目的をもって口の体操に取り組めるようにすることが必要である。</li> <li>・舌の形や動きだけにとらわれず、子供によっては聴覚刺激からの構音練習が改善しやすい場合もある。</li> <li>・助言者の先生より、鼻の調子が悪い場合は一番に鼻の治療を行うということと、顔面の力を抜く遊びを取り入れるとよいというアドバイスがあった。</li> </ul> <p>&lt;グループ③&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2/2に千葉県特別支援教育研究協議会で発表する「自らきこえにくさを伝え、環境調整をしていく力を養うための取り組み」という提案資料を読み合った。</li> <li>・提案の時間配分を当日の司会者を交えて打ち合わせた。</li> <li>・効果的な資料の提示の仕方を話し合った。</li> </ul>			

Dブロック	1月例会	参加人数：18名	会場：千葉市教育会館
<p><b>今年度のまとめ</b></p> <p>○今年度の活動の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容が幅広くてよかった。</li> <li>・色々な立場の方の話が聞け、気付けなかった視点をもつことができた。</li> <li>・アセスメント教材や指導例は、すぐに活用できた。</li> <li>・外部機関（千葉市発達障害者支援センター）の話は貴重な情報。保護者に具体的に情報が提供できる。また将来の姿に見通しがもて、よかった。</li> <li>・教育支援計画や合理的配慮は学校全体の児童を見ていく視点として役立った。</li> <li>・日々の悩みが心置きなく話せる場になった。</li> </ul> <p>○次年度の活動の検討</p> <p>＜外部講師の希望＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメントについて（専門家の話を聞いて、指導実践に活かせるように） 7</li> <li>・医療について 7</li> </ul> <p>＜見学希望＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・療育センター（就学前の情報が知りたい、連携） 3</li> <li>・ライトポート（通級と併用している子がいる） 4</li> <li>・椿森中（保護者から話題に出されるが様子がわからない） 7</li> <li>・放課後等デイサービス</li> </ul> <p>＜授業研究＞…H30年度、報告担当</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・LD等通級指導教室</li> </ul> <p>＜扱いたい内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校の通級指導について 8</li> <li>・校内委員会やケース会議の進め方等 7</li> <li>・療育・就学前の情報について 5</li> <li>・不登校（対策）について 5</li> <li>・指導計画・支援計画の作成・活用について 3</li> <li>・保護者支援（情報交換）</li> </ul> <p>＜その他の意見＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校の前後の状態像や支援の環境は、情報として押さえておきたいところ。就学前についての療育や、保護者が不安を抱える進学、就労などの先の情報について</li> <li>・研修したい内容は多い。全てはできないので、ある程度サイクルを作ったらどうか。</li> <li>・研修→実践→提案と、それぞれが提案できると良い。</li> <li>・<b>H31年度の県教研の提案</b>に向けたテーマを考えた授業実践や子供の実態・変容など2年計画で是非取り組みたい。内容もそれに沿ったもので組んではどうか。</li> </ul>			

# 特別支援教育部会

## 平成29年度 11月例会報告







# A-2

11月例会	参加人数 40人	会場：千葉市立第二養護学校
<p>千葉市立第二養護学校の参観</p> <p>&lt;学校説明&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童数は74名。</li> <li>・学区は、中央区、若葉区、緑区と、稲毛区の一部。</li> </ul> <p>&lt;学習内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活の指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・衣服の着脱、トイレ、食事、係活動など、自立に向けて指導内容・方法・手立てを考え、一日の流れにそって指導している。</li> </ul> </li> <li>○生活単元学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校全体の行事や、学年では校外学習などの行事の事前事後学習等を意図的計画的に単元構成して指導している。</li> </ul> </li> <li>○遊びの指導（低学年） <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師や友達と交わって遊ぶことの楽しさがわかるように工夫して指導している。</li> </ul> </li> <li>○教科別の指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ことば、かず（学年学級もしくは、発達段階グループ別にて指導。火～木の3時間目）</li> <li>・音楽、体育、図工を学年で行っている。</li> </ul> </li> <li>○交流及び共同学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・居住近くにある小学校で、居住地校交流を行っている。</li> <li>・市立養護学校、轟町小学校、県立幕張総合高校合唱部、東海大望洋高校バトン部と交流している。</li> </ul> </li> <li>○自立活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションや人とのかかわりについて、随時、その場で指導を行っている。</li> </ul> </li> </ul> <p>&lt;施設内見学、教材・教具の紹介と授業風景のビデオ、視聴しての参加者の感想&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレの施設が、明るく、広く支援しやすくなっていた。</li> <li>・教室の環境が整っていた。</li> <li>・教材・教具については、手作りのものがいっぱいあり、参考になった。</li> <li>・教材の置く場所が整理されていて、誰が使用しているのか、どこに置いてあるのかがわかるようになっていた。</li> </ul> <p>※すぐ使えそうな教材がたくさんあった。使用したい場合は、連絡をしてくれれば貸し出すことも可能。</p> <div data-bbox="1129 241 1492 510" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1129 537 1492 806" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1173 1012 1433 1205" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1173 1254 1449 1456" data-label="Image"> </div>		
次回 1月例会	<p>場所：千葉市立新宿学校</p> <p><b>※駐車場がありません。公共の交通機関を使用してください。</b></p> <p>内容：教材教具の紹介</p>	

## B ブロック

Bブロック	11月例会	参加人数：30名	会場：花園中学校
研 修 内 容	<p>テーマ「障害者年金など卒業後の福祉について」</p> <p>1 障害年金の概要について            講師 NPO 法人 みんなでサポートちば 鏑木優子 様            3つのポイント 初診日要件 保険料納付要件 障害状態要件 をすべて満たさないと支給されない。先天性の知的障害は誕生日が初診日になる 等の話を伺った。</p> <p>2 知的障害等のある人の障害基礎年金(事例編)            講師 NPO 法人 みんなでサポートちば 岩崎真弓 様            障害の程度の認定目安。就労していても、常に指導が必要な場合は、支給されるケースもある。広汎性発達障害の40歳台の男性で小中学校は通常学級卒業では、通知表を親が保存しており、支給の判定の際に大いに役立った。等の具体的な例を挙げて、解説していただいた。</p> <p>3 質疑応答と補足説明            支給金は本人に支給される等の返答をいただいた。</p> <p>4 参加者アンケートより</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害者年金についての知識を得ることができて、よかった。</li> <li>・ 通常学級卒業生でも、しっかり書類などで生活するうえでの困難さが証明できれば、支給されことを知り、ためになった。</li> <li>・ 卒業後は、病院や相談機関などと連携する大切さがわかった。</li> </ul>		
1 月 例 会	<p>1月16日(火)</p> <p>提案資料を基にした県教研の報告と年間の取組の総括</p> <p>会場：草野中学校</p>		

# Cブロック

Cブロック	11月例会	参加人数 38人	会場：院内小学校
1 事例検討			
口蓋裂に特化した事例検討と講話 講師 黒谷まゆみ先生（千葉県こども病院 言語聴覚士）			
<ul style="list-style-type: none"><li>・口唇裂・口蓋裂とは</li><li>・口蓋裂に生じる問題点</li><li>・口唇裂口蓋裂児との関わり</li><li>・言語聴覚士が行う口唇口蓋裂児への対応</li><li>・どのような構音の誤りがあるのか</li></ul> 前半はレジュメに沿っての講話、後半は映像を流しながら解説をしていただいた。			
2 質疑・応答			
<ul style="list-style-type: none"><li>・口唇裂口蓋裂児をきこえの教室で担当しているが、やはりきこえの面に影響が出るのか。 →聴覚障害と重複している子どもは数少ないが、ほぼ全員が滲出性中耳炎にかかっているため、聞こえにくさを抱えている。</li><li>・食べ物が鼻から出てしまうことはあるのか？ →コツをつかんで上手に食べていることが多い。鼻咽腔閉鎖機能が悪くてのどの奥から食べ物が出ていることがまれにある。</li><li>・口蓋裂に重い軽いという尺度はあるのか？ →誤り音の数が多或少ないはあるが、重い軽いという尺度はない。 その他扁桃腺や声帯についてなど質問が出た。</li></ul>			
3 その他 連絡等			
<ul style="list-style-type: none"><li>・千葉県ことばを育てる会について</li><li>・げんなんフォーラムについて</li><li>・吃音研修と相談会について</li><li>・吃音キャンプについて</li></ul>			
次回例会 1月16日	会場：養護教育センター	内容：今年度のまとめ	

# D ブロック

D ブロック	1 1 月例会	参加人数：1 5 名	会場：養護教育センター（4 研）
<b>講師：千葉市養護教育センター 主任指導主事 清水 範子先生</b>			
<b>1 事例紹介</b>			
<ul style="list-style-type: none"><li>・自閉・情緒学級 2 学級、知的学級 1 学級、計 1 3 名で生活している。</li><li>・事例：情緒学級・A 児（就学時は「知的学級」その後情緒面での課題が大きくなり転籍） 学習する姿勢を作っていきたいが情緒の安定が難しく、学習が積み重ならない。個別だとできることがある。</li></ul>			
<b>2 グループ協議</b>			
<ul style="list-style-type: none"><li>・視覚的な支援を多くして、見通しを持てるようにする。</li><li>・安心して学習できる場所を用意する。</li><li>・好きなことをいかす時間や活動を設定する。</li><li>・「ありがとう」と意識的に声をかける。</li><li>・本人と目標を立て、達成できたかどうか、本人が分かる形で評価するとよい。</li><li>・校内の先生方に積極的に関わってもらう。</li><li>・感覚が過敏そうなので、医師につなぐとよい。</li><li>・保護者の関わり方について、相談できる医師や関係機関につなぐとよい。</li></ul>			
<b>3 講師 清水 範子先生より</b>			
<ul style="list-style-type: none"><li>・教育的虐待が最近注目されている。 厳しさが自分を成功させてきたと思っている保護者が、我が子に身の丈以上のことを求めた結果、脳が傷つき、虐待を受けたような症状が現れること。虐待されたお子さんは発達障害と同じような症状になることがある。</li><li>・症状が ADHD や ASD と同じであれば今日のグループ協議で出た方法が有効である。しかし、発達障害が疑われるお子さんは、ADHD や ASD であれば小さい時から症状がずっとあったはず。本当に発達障害なのか疑わなければいけない。</li><li>・軸となる家庭が危ういので、保護者が考え方や接し方を変えていかなければ、落ち着いた学校生活を送れなくなる恐れがある。大きな出来事があると、登校しぶりになる恐れもある。</li><li>・学校やデイサービスと情報を共有し、いずれは父親と母親と話し合わなければいけない。</li></ul>			
<b>4 特別支援学級の紹介</b>			
美浜区内小学校：知的学級 1 学級、計 2 名で生活している。 毎日マラソン、野菜の世話、日記、しりとり、言葉集め等を行っている。 目を見てあいさつができるように指導している。 できるだけ交流学級で活動している。→（講師より）近隣の特別支援学級との交流を進め、 集団で過ごす機会を積極的に作ってほしい。			
次回：1 月例会	会場：養護教育センター（4 研）	内容：今年度のまとめ	



# 特別支援教育部会

## 平成29年度 10月例会報告



# A-1 ブロック

参加人数	48名	
今回 10月例会	協議内容	<p>内容：授業研究・協議会 会場：千葉市立真砂東小学校</p> <p>1 授業研究 国語科 聞こう、話そう「ズームインたんぽぽ」</p> <p>2 協議会</p> <p>① 授業者の先生より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・B 児に対しての支援は適切だったか</li> <li>・番組作りをするという目的をもって活動するなかで、ビデオを撮って自分の姿を意欲をもって振り返ることができていた。</li> </ul> <p>② 本時の個別目標の数が多いことについて</p> <p>→幅広く設定しておくことで、子供たちの姿を柔軟に見とることができる。児童の様子や気持ちが不安定でも、様々な観点で評価してあげることができる。</p> <p>③ ビデオ（視覚教材）の有効活用について</p> <p>→全体を映すメリット…児童同士のかかわりを見ることができる。 →話し手に焦点を当てるメリット…よりよい話し方に注目することで、自分の発表の仕方を振り返ることができる。</p> <p>④ 安川晴信校長先生より</p> <p>○本日の授業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の話す・聞くなどのコミュニケーション面での実態を担任としてどのように分析し、指導方針を立てたのかという記述があるとよい。</li> <li>・B 児にとっての話す・聞くことに関する必要なコミュニケーションとは何か。</li> </ul> <p>○特別支援教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育とは、何がよく何がよくないのかを児童に確実に伝えること。ただ言うだけでなく、その子に伝わるように呼びかけることが大切で、それによって場面に応じた行動ができるようになっていく。</li> <li>・心に残っている先生の素晴らしい一言について →授業中に筆箱をハンドルに見立てて教室内をドライブする B くんに対して担任が言った言葉：「プリウスを運転してね（プリウスはエンジン音の静かな車）」</li> </ul>
		次回月例会
内容	授業研究	

# A-2

10月例会	参加人数 48人	会場：千葉市立生浜東小学校
	<p>&lt;授業者より&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○今までの授業の中で、準備・片付けが早く取り組むことができた。</li><li>○授業が早く進んだため、振り返りカードを書く時間を確保できたかもしれない。</li><li>○運動量が確保できた。</li></ul> <p>&lt;グループ協議から&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○場づくりが工夫されていて、子どもたちの意欲が高かった。</li><li>○子どもたちがのりやすいような曲を選んだり、バンドナを付けて雰囲気を出したりして、工夫されていた。</li><li>○メダルは、視覚的によかった。</li><li>◇頑張ったことを発表する場面があってもよかった。</li></ul> <p>☆準備の終了の合図は意図的だったのか？</p> <p>→わくわくタイムを減らし、チャレンジタイムを多くとりたかったため。</p> <p>☆裸足で取り組んだ理由は？</p> <p>→神経発達を促すため、マットがあったのと、いきいきと活動をしていたため。</p> <p>☆腕の力や、体幹を鍛えるための日々の運動は？</p> <p>→休み時間に子どもたちを誘って、外で鉄棒などの運動を行っている。</p> <p>☆教材を作る時間はどれくらいとったのか？</p> <p>→1時間目の日常生活の時間を、帯でとって取り組んでいた。</p> <p>☆単元のゴールは？</p> <p>→振り返りカードの裏が地図になっていて、学年花壇に宝物があるようになっている。おいもほりをして、調理を行う予定。</p> <p>☆この時期にサーキットを行う理由は？</p> <p>→子どもたちがゆとりをもって行うために、この時期に設定した。</p> <p>☆くすのきボックスは、どのように作ったのか？</p> <p>→牛乳パックを集めるため、全校に呼びかけるなど協力をしてもらった。</p> <p>&lt;講師より&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○運動量は、1時間のうち6割あるとよい。</li><li>○準備と後片付けを含めて45分でできていて、素晴らしい。</li><li>○教材が子どもの手作りになっていて、とてもよい。</li><li>◇準備運動は入念に行うとよい。</li><li>◇準備・片付けは必ず靴を履くとよい。時間を意識させすぎると怪我につながる恐れもある為、気を付けたい。</li><li>◇登り綱の下に、マットを敷いておきたい。</li><li>◇サーキットの内容は、小出しにして変えていきバージョンアップをすると、今日は何が変わっているのかなと、子どもの意欲にもつながる。</li><li>◇音楽で始まり、音楽で終われるようにできるとよい。</li><li>◇時間があれば、体ほぐしをさらに取り入れてほしい。</li><li>◇1つ1つの動きを丁寧に行い、スピード重視にならないようにしたい。</li><li>◇ペアで回る場面があるとよかった。見合う中で、気づきが出て高めあうことができただろう。</li></ul> <p>※参考資料・・・文部科学省 小学校体育 まるわかりハンドブック</p>	
次回 11月例会	<p>場所：千葉市立第二養護学校</p> <p><b>※駐車場はありますが、できる限り乗り合わせでお願いします。</b></p> <p>内容：グループ学習の様子、教材・教具の紹介</p> <p>講師：千葉市立第二養護学校 山宮 貞雄先生</p>	



# Bブロック

10月例会	参加人数 31人	会場：千葉市立千城台西中学校
<b>Bブロックテーマ「個に応じた表現力を育てるための支援の在り方」</b>		
1 研究授業		
会場：千城台西中学校		
授業者：前田操先生、田邊寿晃先生		
講師：市立養護学校 校長 木村 辰治先生		
2 協議会		
①〈授業者より〉		
・昨年度は、作業と生単とを分けて一人ひとり製品を作っていたが、日があくと粘土が固まったり、カビが生えたりして製品化が難しかった。今年度は作業/生単として組み、1年生が多く入ったので1年生は型抜き、2年生は皿作り、3年生はなめしと担当を決め、分業制にした。		
・「報連相」を意識し、作業をキャリア教育の1つと位置付け、働くことを意識させるような声掛けや互いの報告など具体的な言葉を教えながら進めている。		
・教師の支援が少なくなるよう、役割分担をし、働く意識を持たせる。		
・働くスキルよりも、会社や社会で受け入れてもらえる人になってもらいたい。		
②〈協議会やアンケートより〉		
・生徒がとても静かに取り組んでおり、指示がなくても自分たちで準備し、見通しを持って行っていた。		
・会社のような雰囲気を出す工夫（出勤札やミーティング、活動の記録など）がよかった。		
・他校の作業の時間や、取り組みなど情報交換ができた。		
・目的（バザーでの頒布）をもって、作業ができるとよい。		
③〈講師の先生より〉		
・生徒たちが落ちついて作業に取り組んでいる。障害種によっても異なるが、仕事の内容が明確で、自分のやるべきことを分かっている、見通しを持っていた。		
・報連相の重視から、各々に個別目標がコミュニケーションに関することであった。自信を持って活動できるためには、見通しを持って生徒が主体的に動ける場面を増やし、自分の言葉で発言できるようにしていく。		
・単元名に違和感があり、生徒が次に頑張ることがわかるような単元名が良い。		
・次期学習指導要領の改定のポイントに、キャリア教育には、自立活動（個別の指導計画にある個別の課題に取り組む）の要素を意識的に取り入れることが必須になっている。		
○次回の連絡		
日時：平成29年11月14日（火）		
会場：千葉市立花園中学校 視聴覚室		
内容：講演会「障害者年金などの卒業後の福祉について」		
講師：NPO 法人みんなでサポート千葉職員		



# Cブロック

Cブロック	10月例会	参加人数 38人	会場：花見川第三小学校
<p>1 授業研究 ことばの教室 個別学習 題材名「おはなしポケモンすごろくをしよう」(スの音できるかな) 授業者 八重樫淑子先生 講師 高瀬景子先生(養護教育センター指導主事)</p> <p>2 協議会 ○参観時に付箋を配り、質問したいことや話し合いたいことを書き込んだものを模造紙に貼り、それを元に経験年数別のグループで協議をした。(1年目・2年目・3～5年目・6年目以上2グループの計5グループ) &lt;授業者より&gt; ・対象児は緊張の中でも苦手な学習を頑張る姿が見られた。基本的な内容で進めたが、ベロトレで横の動きを取り入れるのが初めてで、顔も動いてしまった。学習を項目ごとに短く切って進めていくのが対象児に合っている。「ビリビリ」と「静か」というワードを用いたり、双六で一緒に参加した先生の間違えを直すという活動を取り入れたりと、対象児に対する手立てを考えながら進めることができた。 ・通常の学級との連携としては、夏休みに担任と特別支援コーディネーターの先生と面談をし、今日の授業も参観に来ていただくことができた。</p> <p>&lt;参観者より&gt; <u>1年目グループ</u> ・「場の設定」「教材」「先生」「スの音出し」という4観点で話し合った。下唇を巻き込まない方法があったら知りたい。 <u>2年目グループ</u> ・授業者にグループに入っていただき、「無声音と有声音」「使うストローの長さ」「舌を入れるタイミング」等の質問を交えながら話し合った。 <u>3～5年目グループ</u> ・「舌出しの練習において、舌を戻すタイミングはいつがいいのか」「無声音のウとはどのような音か」「耳トレのカードのレベル」「風の音はΘなのかSなのか」という質問が出た。 A舌を戻すタイミングは対象児はタ行で試みたが難しかった。舌が出ても人に伝わる言い方ができればよいのではないか。(舌出し、授業者) A置換の子は単語レベルで戻すようにしているが、口蓋化の子は難しい。(舌出し) A口腔の模型を見せて、舌の状態を説明し、試し試しひっこめていく。(舌出し) A耳トレのカードは前時まで文字ありでやっていた。字がなくてもどのくらいできるかを試したが、裏に文字を書いておくとよいと思った。(耳トレ、授業者) <u>6年以上①グループ</u> ・「子どもの実態に合わせた授業の構成・工夫・教材」「対象児のゴールはどこまでか」「座椅子について」「有声音(ビリビリ)のウは、のどに力が入っているのでは」「耳トレのカードについて」「ブローイングを行うとよいのでは」という話題で話し合った。 <u>6年以上②グループ</u> ・ブロックテーマである「通常の学級で生き生きと生活できる子どもの育成を目指して」をもとに話し合った。ことばの教室で認められる経験を積み重ねている。対象児のゴールはどこなのか。 ・サポートブックの改訂版を作り、全学校に再配布したり、コーディネーター研で話題にしたりしてはどうか。 ・私たちもボーダーの子が入ってくることに備え、ノウハウが必要である。</p> <p>3 講師より ・対象児の課題だけに着目するのではなく、まず魅力を感じられる担当者になる。 ・ことばの教室でできること、できないことなどを付箋や図で整理するとよい。 ・授業者のノートには舌の写真が貼ってあったり、音の出し方を言語化して記してあったりと工夫が沢山ある。真似できるところから取り組んでいく。 ・ITPAの活用について。今後研修ができればよい。</p> <p>4 その他 連絡等 ・ことばを育む親の会より ・上程の仕方について</p>			
次回例会 11月14日	会場：院内小学校	内容：口蓋裂に特化した事例検討会	

# Dブロック

Dブロック	10月例会	参加人数：19名	会場：養護教育センター（4研）
<b>千葉県発達障害者支援センター センターの紹介と支援</b> <b>講師：千葉県発達障害者支援センター 所長 加瀬 幹生 様</b>			
<b>1 講演</b>			
○千葉県発達障害者支援センターの紹介			
・千葉県から社会福祉法人千葉県社会福祉事業団が事業を委託			
・平成20年1月に開設 発達障害に特化した機関			
・相談支援、発達支援、就労支援、普及啓発、研修を行う			
○相談方法について			
・来所相談、電話相談、訪問相談を受けている。来所相談は現在2か月待ちである。			
・匿名で電話相談できる。電話のみで解決する場合もある。			
・対象年齢に制限はない。中高生本人からの相談や、祖父母から孫についての相談もある。			
・機関支援（学校や企業から依頼を受けて見に行く）、巡回相談（巡回相談員が幼・保・認定子ども園を訪問し観察後、個別相談をする）も行う。			
○支援事例について			
・「テレビや新聞で発達障害の特集を観た」「生活面で困っている」「発達障害かもしれない」「働いても仕事が長続きしない」などの相談がある。			
・行動をクローズアップせず、否定せずに話を聞くことが大切である。			
・発達障害を疑ったら、医療機関の受診を勧めている。			
・成人期のサポート 参考文献『大人の発達障害を的確にサポートする』日東書院			
○その他			
・環境作りが大切である。何でも聞ける環境づくり、自主性という名の放置にならないように。			
・学生時代に、大いに褒めたり肯定したりしてあげてほしい。			
・学齢期の一言をきっかけに引きこもりになっている方は多い。			
・怒られたことしか残っていない方がいる。少し厳しく言われたことやネガティブなことが自己否定につながってしまうので、気を付けてほしい。			
・社会性とは「ひどく嫌われない程度に付き合える力」と考える。			
・教育者として、自分をほめる癖をつけてほしい。それが、発達障害者をほめることにつながる。日常の些細なことをどうポジティブに考えられるかが重要である。			
・学校の先生たちと連携を組んでいきたい。			
<b>2 質疑・応答</b>			
・力を入れたいと考える事業は何か。			
→来年度から高校の通級による指導が開始される。どこへ相談をしたらよいか分からない方たちがいるので、高校へ向けて千葉県発達障害者支援センターを紹介する活動を始めている。			
・就労について相談したいときに、相談しやすい機関はどこか。			
→千葉県障害者職業センターは手帳の有無に関係なく、高校3年生が活用できる。職業相談だけでなく、職業評価もしてくれる点が良い。			
次回：11月例会	会場：養護教育センター（4研）	内容：（1）稲毛小学校より事例紹介 （2）各校より特別支援学級の紹介	

# 特別支援教育部会

## 平成29年度 9月例会報告



# A-1 ブロック

参加人数	37名
今回9月例会	<p>内容 : 指導案検討            会場 : 千葉市立 真砂東小学校            講師 : 千葉市立 都賀小学校 校長 安川 晴信 先生            提案者 : 千葉市立 真砂東小学校 向 純子 先生 伊藤 均 先生            单元名 : 国語科 聞こう、話そう 「ズームインたんぼぼ」</p> <p><b>授業者より（検討の視点）</b></p> <p>4年生2名、5年生3名、6年生3名、担任2名。意欲面、学習面で実態差が大きい、8名とも、話すこと・聞くことの楽しさを味わってほしい。指導案検討の主な視点は、「目標を達成するための手立ての工夫」について。</p> <p><b>参加者より</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話すこと・聞くことの内容を分けて授業するとよい。</li> <li>・本時の個別目標を明記したほうがよい。</li> <li>・子供が話す練習をしている様子を録画し、繰り返し見る活動を取り入れる。</li> <li>・聞くことの活動が少ないので、毎時5分程度の聞き取りクイズなどが必要。</li> <li>・発表のときに具体物を使う。</li> <li>・話す・聞く練習を楽しんでいる工夫。（音がでる。ビリッとめくるなど。）</li> <li>・グループ学習では、実態差のあるグループ編成をする。</li> <li>・番組1と番組2の内容が重要。</li> <li>・highグループの子供は、「ので、だから」などの語彙を増やしていく。</li> </ul> <p><b>講師指導</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導案の書き方を修正する。</li> <li>・子供にとって「もう少し頑張る。」とできる目標にする。</li> <li>・毎時間、話すこと・聞くことの練習は、子供にとって厳しいので、時数の半分は、子供が「やってみたい。」と思えるような内容の授業を取り入れる。</li> <li>・発表を聞いてもらう人の幅を広げる。</li> <li>・様々な手立てを試してみて、子供に合うものを見つけていく。</li> <li>・段階別評価基準表は、他校でも活用したほうがよい。</li> </ul>
	次回月例会

# A-2

9月例会	参加人数 53人	会場：施設見学（8カ所）
見学施設		
1 わくわくスマイル（4名）		
2 あはは（3名）		
3 チャコ（3名）		
4 クローバーわかば（3名）		
5 アニマート（4名）		
6 ノビルキッズ（14名）		
7 わくわくギフト（3名）		
8 中野学園（19名）		
・施設見学では、職員の方に施設の説明や活動内容を聞き、児童の様子を見学することができました。		
次回 10月例会 10月17日（火）	場所：千葉市立生浜東小学校 内容：授業研究（体育） 講師：教育支援課 指導主事 峰 成治 先生	

## Bブロック

参加人数	23名	会場	千葉市立新宿中学校
9 月 例 会  9 月 12 日  火	研 修 内 容	1. 県教研での提案概要について <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度からの研究の流れについて</li> <li>・仮説、研究内容の確認</li> </ul> 2. 6月例会での授業の様子 <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月例会で使用したDVDの視聴</li> <li>・6月例会後の授業の内容、生徒の変容について</li> </ul> 3. 各校での授業実践の報告 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践報告書をもとに、各校の様子を発表</li> </ul> 4. 講師（千葉市立養護学校 校長 木村 辰治 先生）からの助言 <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路を考えるのは通常の学級でも難しい作業。情報の少ない特別支援学級はもっと難しい。よって、視覚教材活用や身近な題材の活用を。</li> <li>・情報の共有、ネットワークの構築は良い取り組みである。</li> <li>・キャリア教育、進路指導、進路に関する学習の区別について。</li> </ul>	
次 回	10 月 例 会	会場：千葉市立千城台西中学校 授業研究（作業学習）	

# Cブロック

9月例会	参加人数 27人	会場：高洲第三小学校
<p>1 次回授業研究について ことばの教室 個別学習 題材名「おはなしポケモンすごろくをしよう」(スの音できるかな) 授業者 八重樫淑子先生 講師 高瀬景子先生(養護教育センター) 指導主事</p> <p>2 指導案検討 ＜授業者より＞ ・対象児についての動画の提示があり、それぞれが自分だったらどのように児童の実態をみとるかを考えながら見た。その後、児童の実態について、日々行っている学習内容について、連携している機関についての情報提供があった。発音だけでなく、併せ持つ児童の口蓋化構音改善へのアプローチについて様々な取り組みを行っている。</p> <p>＜参加者より＞ ・入学前に通っていた療育施設での様子を知りたい。 ・遠視ということだが、メガネはかけないのか。また滲出性中耳炎もあるので、きこえにくい児童に対しての発音練習が手だてとしては有効ではないか。 ・「ツ」が正しく発音できるのであれば、「ツ」から「ス」を導いてみてはどうか。 ・家庭環境はどうか。全体像をつかんで指導していくとよいのでは。 ・体の動きがぎこちなく力が入っている様子であるが、口の体操以外にも脱力できるような運動をやっているか。トランポリンも使える。 ・口蓋化構音の特徴を知りたい。</p> <p>3 講師より ・最初の動画の提示での自分の見取りはどうだったか。口蓋化構音は他の構音障害よりも事例が少なく、しかもこの児童は併せ持つものもあるため、ベテランの先生でも指導計画をスムーズに立てられないと思われる。来月まで対象児のことを考えてみて、授業が見られたら実りある研修になるのではないか。 ・授業者は盲学校や聾学校の指導法などを調べ、参考にし、舌が前に出るような学習を行っている。参加者からも出ていたが、児童の全体像を見てできることを探していくことが大切である。もしも可能なら、学習の中に母子で楽しめる活動を取り入れ、親子関係がよくなるようにしてみてはどうか。 ・以前担当していた児童で、舌やほほに力が入っていて、上下の唇を巻き込みながら舌を前に出そうとしていた事例があった。脱力に時間がかかった。脱力し、唇に舌をのせることと「ツ」から「ス」を導くことをやってみるとよいのではないか。 ・構音サンプルのテープがとても参考になるので、口蓋化構音なのか置換なのか迷った時は聞くとよい。</p> <p>4 その他 連絡等 ・次回例会について ・グッドイナフ検査について ・口蓋裂の事例(11月の市教研で使う)が出せる学校の募集 ・県特連秋季研について ・吃音交流会・吃音研修会・吃音相談会について ・親の会の相談会のお手伝いの募集</p>		
次回例会 10月17日(火)	会場：花見川第三小学校	内容：授業研究②

# Dブロック

9月例会	参加人数：17名	会場：養護教育センター（4研）
<b>合理的配慮について 講師：養護教育センター 主任指導主事 久保木 修先生</b>		
<b>(1) 持ち寄り事例の紹介</b>		
【通常学級】		
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 座席を担当に近い場所にし、小まめに言葉がけをする。(①-1-1)</li><li>・ 本人・保護者と確認し、課題の量を調整する。(①-1-2)</li><li>・ LD等通級指導教室に通級し、週1回の個別の指導を受ける。(②-1)</li><li>・ 本人の特性について、校内で共通理解する。(②-2-2)</li></ul>		
【特別支援学級（自・情）】		
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 予定を文字で書いたり、時計を表示したりして、見通しを持てるようにする。(①-2-1)</li><li>・ 日記やスピーチ等、言葉を使う場を日常的・意図的に作る。(①-2-2)</li></ul>		
<b>(2) グループ協議・発表「合理的配慮を入れた個別の教育支援計画の作成において困難だと思う点と重要だと思う点」</b>		
【困難だと思う点】		
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 保護者が考える目標が本人の実態に合っておらず、保護者と合意形成していく過程が大変だったことがある。</li><li>・ 校内の全職員に、合理的配慮の正しい理解が進んでいない。</li><li>・ 作成後、効果的に活用されている事例を知りたい。</li><li>・ 3観点11項目に当てはめることが難しい。</li></ul>		
【重要だと思う点】		
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 納得して合理的配慮を受けられるように、本人が希望していることが大切である。</li><li>・ 保護者が合理的配慮の意義を正しく理解することが必要である。</li><li>・ 校内の全職員が、差別解消法や合理的配慮について正しく理解することが必要である。</li><li>・ 個別の教育支援計画の定期的な見直しと記録が大切である。</li></ul>		
<b>(3) 講師助言</b>		
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 合理的配慮を3観点11項目に分類するのは一見難しそうだが、実は今までやってきた支援を整理したら3観点11項目になっただけで、当てはめるのではない。難しく考えないでほしい。</li><li>・ 通常学級の先生が読む雑誌の中で、困難さに対する指導の工夫について特集される時代となった。</li><li>・ 「その子だけ特別」なのではない。合理的配慮があることで落ち着いて生活するスタート地点に立てるのだから、支援してほしい。まだ正しい理解が広まっていない現状があるので、広めていきたい。</li><li>・ 個別の教育支援計画は、引き継ぎのツールとして、先へ繋いでいくものである。定期的に見直し記録しておくことが必要である。</li><li>・ 中学校になってから合理的配慮を行うのは難しい面があるので、小学校のうちから「配慮があるのが当たり前」という環境にしてほしい。</li><li>・ 養護教育センターと幼稚園・保育園が連携して個別の教育支援計画の形式を作成し始めている。</li><li>・ 福祉事業所・放課後等デイサービスでも個別の支援計画を作成している。学校とのすり合わせが必要なので、保護者の許可を取り、連携を進めることもある。その場合は管理職が理解しておくこと。</li></ul>		
次回：10月例会 10月17日（火）	会場：養護教育センター （4研）	内容：千葉県発達障害者支援センターの紹介と支援 について



# 特別支援教育部会

平成29年度

## 8月例会報告



全ブロック	8月例会	参加人数：144名	会場：千葉市ハーモニープラザ
-------	------	-----------	----------------

平成29年8月22日(火)

《講演会》

### 「実践に繋がるヒントがいっぱい なるほど！納得 性に関する指導」

○講師 高瀬 初美 先生

☆千葉県立柏特別支援学校養護教諭

養護学校・特別支援学校36年目。千葉大学看護学部非常勤講師、日本学校救急看護学会評議員、特別支援学校養護教諭キャリアアップ研究会副会長、思春期保健相談士



<性に関する指導を実施するにあたって>

学校で何を伝えるのか、どんな教材を使用しているのか、誰が行うのかを明確にする。教科書は必需品であり、何が書かれているのか読み込むことが大切である。授業で行う前に、保護者に伝え、連携を図る。

<性に関する指導の実際>

テーマをいくつか設けてカフェテリア方式を行う。テーマによって分けることによって深い教養となる。内容によっては、高等部くらいまでは男女一緒の学びの場でも良い。

○初経と月経

月経について高等部までに手当の仕方、記録を付けるように指導する。月経が来ない＝妊娠している！？と教える必要がある。

○精通と射精

性器いじりの原因として①医学的・生理的原因②物理的原因③心理的原因の3つが挙げられる。その他の理由としてパンツがきつい、性器がかゆい等もある。

○基本的な生活習慣として

～入浴指導～

男女の混浴の年齢は、県の条例で決められている。10歳が最も多い。千葉県は記載されていない。

風呂の学習では、のれんや桶等があるだけで子供の興味・関心が高まる。

～洗顔～

桶に米やビーズを入れてすくう練習をする。練習の際には、家庭で使用しているものを持ってきてもらうとよい。

<保護者との連携>

学校で行った授業実践がそのまま保護者に届くということは難しい。

保護者は、1 知りたい (いろいろな情報を)

2 ききたい (先生たちに)

3 (自分の工夫を) 伝えたい＝毎日試行錯誤の日々。困っているから伝える場が欲しい。

～実践から得たワンポイント～

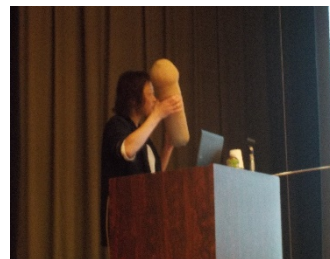
## 1 保護者との連携

- ①事前事後のお知らせ
- ②ワークシートの活用
- ③授業参観を通して、保護者にも参加してもらう。

## 2 ワークシートの効果的な活用

- ①子供が学習に使う。  
ワークシートと同じ内容をパワーポイントにして授業で利用する。
- ②保護者にも伝えたい内容を取り入れる。
- ③最終ページに保護者からの感想を記入していただく欄を設ける。
- ④感想から、保護者のニーズを把握し、次に生かす。

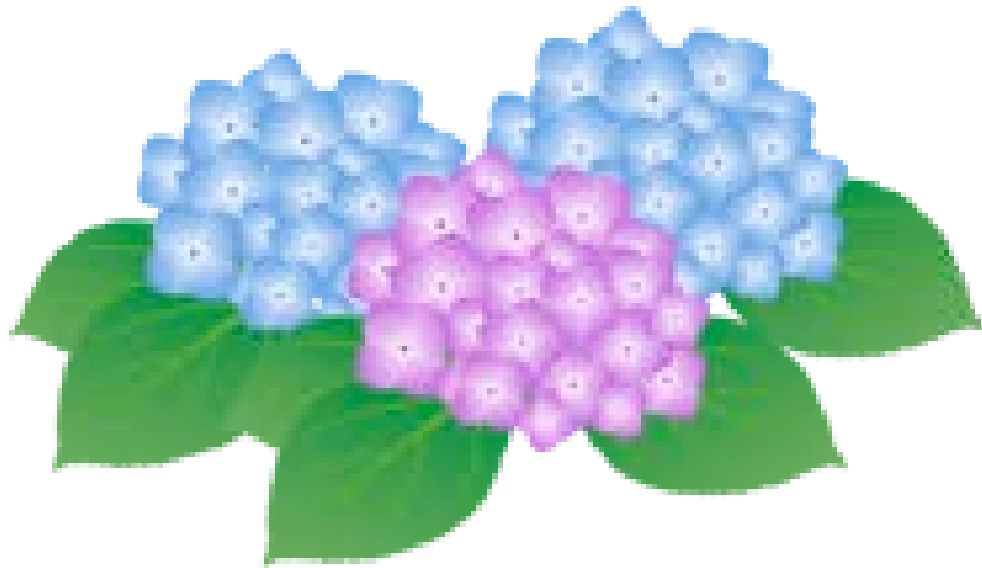
○高等部卒業後を見通して、繰り返し何度でもあきらめずに取り組む。  
性に関する指導は、とにかく実践！まずは、やってみよう。



次回	会場	内容
9月例会	A-1 真砂東小学校	A-1 指導案検討
	A-2 放課後等デイサービス ノビルキッズ、あはは等	A-2 施設見学
	B 新宿中学校	B 各学校で展開した授業実践の報告会
	C 高洲第三小学校	C 10月授業研の提案と指導案検討
	D 養護教育センター	D 合理的配慮の事例紹介

# 特別支援教育部会

## 平成29年度 6月例会報告



### 8月例会のお知らせ

- 1、日時 8月22日(火)午後
- 2、内容
  - ・講演会
  - ・演題「実践に繋がるヒントがいっぱい！特別支援学校での性に関する指導」
  - ・講師 千葉県立柏特別支援学校 養護教諭 高瀬初美先生
- 3、場所 千葉市ハーモニープラザ イベントホール

# A-1 ブロック

参加人数	44名	
今回6月例会	協議内容	<p>内容：学校の概要、教育課程等の説明、授業参観、施設見学会 会場：千葉市立高等特別支援学校</p> <p>1 校長先生、教頭先生、教務主任の先生より 学校の概要、教育課程等、千葉市立高等特別支援学校教育活動の特色について</p> <p>2 授業参観</p> <p>○1年生 ・卒業生の就職先での仕事を見学し、そのとき先輩に聞いた嬉しかったこと、大変だったことをまとめる。</p> <p>○2年生 ・宿泊学習（横浜方面）の事前学習、グループで話し合い、予定を立てる。</p> <p>○3年生 ・修学旅行（東北方面）の事前学習、その地域について調べたことを模造紙にまとめる。</p> <p>3 作業学習について</p> <p>・作業班の種類は縫製・織物班、農園芸班、ビルクリーニング班、事務サービス班、食品加工班、木工班の6つ。</p> <p>・地域に進出する、プロの技を取り入れるという姿勢で取り組んでいるため、とても本格的な活動となっている。</p> <p>4 質疑応答</p> <p>Q. 入学者選考について、試験の内容やレベルを知りたい。 A. 試験内容は学力検査、運動検査、作業検査、面接（保護者、生徒それぞれ）であり、公開している範囲の詳しい内容は、県庁の文書館に保管してあり、閲覧することができる。</p> <p>Q. 卒業生が今でも相談に来たり、愚痴をこぼしに訪れたりするようだが、相談内容の実例を教えてほしい。 A. 1番多い相談は、上司や職場の人との人間関係やコミュニケーションの取り方について。また、仕事内容がだんだん難しくなることなども悩みとなることが多い。</p> <p>Q. なぜその作業班にしたのか、また今後変更することはあるのかを教えてほしい。 A. 作業班の種類については、製造系3つとサービス系3つとなっている。変更の予定はない。</p> <p>Q. 性教育についてはどのようにしているのか。 A. プロの指導を取り入れることで説得力のある指導を行っている。 など</p>
		9月例会
会場	千葉市立真砂東小学校	
内容	指導案検討	

# A-2

6月例会

参加人数 60人

会場：千葉市立誉田東小学校

## 1 絵画の指導

### (1) 題材の設定の仕方

- ・楽しかったこと、経験したこと、頑張ったこと、夢中になって取り組んだこと、その時に身近にあるものを取り上げる。そして、描く前に体験させたり、経験させたり、触れたりできるようにするとよい。



### (2) 教材教具の工夫

- ①下絵を描くための手だて…活動している写真を撮る、体験する量によって描く絵が違う。
- ②絵の具の指導・・・視覚的な手だてを用意する。使う色のみを出すなど。
- ③色付けのための工夫・・・はけ、ローラー、雑巾筆、握るクレヨン、クレヨンを束ねる塗るときに「シュッシュ」と声に出して楽しく塗るように働きかける。

### (3) 実践例「歯磨きしたよ」

指導の流れ

- ①体験する
- ②写真を、トラペンシートを使って写す
- ③下絵を描く
- ④色づけ
- ⑤背景を描く、塗る
- ⑥鑑賞する

※一人一人によって違うが、14～16時間程度使って描く。

## 2 工作の指導

「はさみやのりを使った題材を中心に」

### (1) はさみの工夫

- ・切り線の色、太さを替える。はさみの持ち手を工夫する。はさみの先端に印をつける。

### (2) のりの工夫

- ・つけたらよいところに、印を付ける。色付きのり。



## 3 彫塑の指導

「立体感やボディイメージを育てるために」

- ・芯材を使って体操や運動、料理している様子、動物など
- ・紙粘土で、おかずを作ってレストラン。
- ・ペットボトルと粘土を使って、自分の顔を作る。

## 4 版画の指導

### (1) 紙版画<1～3年>

- ・下絵に合わせて、身近なものから材料を選択。
- ・ボンドを活用するときは、発砲スチロールを台紙にすると便利。

### (2) 木版画<4～6年>

- ・彫刻刀の使い方に気を付けさせるために、練習版とシールを使って事前に行う。彫る音「スー」という音を意識させると、きれいな線彫りができる。



※その他、保育園や幼児向けの教育書を参考にするよい。

※山下先生をはじめ、くすのき学級の先生方、準備ありがとうございました。

9月例会

日時：9月12日（火）

場所：未定（決まり次第連絡します。）

内容：施設見学

Bブロック	6月例会	参加人数：31人	会場：さつきが丘中学校
-------	------	----------	-------------

ブロックテーマ「個々の能力に応じた表現力を育てるための支援のあり方」

## 1. 授業の見学

展開学級 2・3年 DE組  
 単元名 「卒業した先輩の進路に学ぶ」  
 授業者 秋葉 泰博 先生 佐々木 祐 先生  
 講師 千葉市教育委員会 教育支援課  
 主任指導主事 千葉 直敏 先生

## 2. 協議会

<授業者より>

- ・近年、本校の卒業生の進路が多様化している状況を踏まえ、卒業生へのインタビューVTRを取り入れて、進路学習を行おうと考えた。
- ・卒業生の話をよく聞き、予想以上にワークシートに話の要旨を書くことができていた。また、どの生徒も真剣に取り組んでいた。今後の進路学習に生かしたい。
- ・時間配分がうまくいかなかったのが残念だった。

<協議会、アンケートより>

- ・顔を知っている先輩から進路に関するアドバイスを聞けることは、生徒たちにとって非常に良い機会になったと思う。
- ・生徒の実態に応じたワークシートが用意されていたのが、効果的だったと思う。
- ・様々な進学先や就職先について知ることができ、生徒たちの進路選択の幅が広がったと思う。
- ・発表のさせ方も生徒の実態に応じて変えており、参考になった。
- ・どの生徒も集中して映像を見、メモすることができていた。

<講師の先生より>

- ・教師と生徒の間に良い関係が築かれているように感じた。生徒たちが落ち着いており、集中して学習に取り組むことができていた。
- ・ワークシートの工夫、ワークシートの配布の仕方、展開における手立てが素晴らしい。
- ・VTRを途中で止めて、生徒に言葉をかけながら要点を確認したり、机間指導を行ったりしていた点が良かった。
- ・授業におけるねらいは、絶対にぶらさないことが大切である。

## ○次回の連絡

日時：平成29年9月12日（火）

会場：千葉市立新宿中学校

内容：各学校で展開した授業実践の報告会

講師：市立養護学校長 木村 辰治 先生

# Cブロック

6月例会	参加人数 35人	会場：院内小学校
<p>1 授業研究 ことばの教室 グループ学習 題材名 レジリエンスを育てる 「スリーヒントクイズ」 授業者 T1 鶴岡瑠璃子先生 T2 渡邊美穂先生 T3 出口紘子先生 T4 大岩恵子先生 T5 松永美里先生 T6 前田隆先生</p> <p>2 協議会 ○参観時に付箋を配り、レジリエンスについて・グループ学習について・その他という項目で書き込んだものを模造紙に貼り、それをもとに協議した。</p> <p>&lt;授業者より&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別学習では話せていても、通常の学級では発表が苦手できなかったり、作文を書く時に困難を抱えていたりする子どもたちが今日のグループ学習に参加していた。毎回、グループ学習後のそれぞれの個別学習でも深め、ことばのやり取りの力をつけていけるようにしている。この授業を迎えるにあたって、6人の担当がしっかりと情報共有をしてきた。</li> </ul> <p>&lt;参観者より&gt;</p> <p><b>質問</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4つの窓やおはなしGOなどの活動について詳しく知りたい。→資料提示</li> <li>・グループのメンバー構成について詳しく知りたい。→吃音グループ参加者以外を対象</li> <li>・自分の学校のグループ学習ではメンバーが集まらない。どのような声掛けをしているのか知りたい。 →毎回同じ曜日に設定しないようにしている。保護者からことばのやり取りについての悩みが出てきたら勧めている。</li> <li>・子どもたちのレジリエンスをどのように見つけているか。 →ありのままの子どもを受け入れ、少しでも頑張れた部分に注目し認めていく。</li> </ul> <p><b>感想</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが安心して発表できる場づくりができていた。</li> <li>・話せない子に対して、担当者が適切なフォローができていた。</li> <li>・参加者が多いグループを初めて見るのができた。活動の中で小グループにも分かれていて話しやすい環境だった。</li> <li>・カテゴリーカードが有効だった。</li> <li>・活動に対しての掛け声があり、みんなでまとまっている印象だった。</li> </ul> <p>3 講師：千葉市養護教育センター指導主事 高瀬景子先生 より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経験年数が0～4年の先生が多い。今日は意見が活発にやり取りできるように、付箋に書き出して協議してみた。発言者が増え、とてもよかった。</li> <li>・授業者の思いが良く語られていた。</li> <li>・今後グループ学習の発展として、「担当者が入らない小グループの話し合い」「理由を話すための接続語に注目して行う」「活動風景の写真を並べ替え、前時を振り返る」など、やってみるとよい。</li> <li>・ことばのテスト絵本の問いかけの仕方など深めていきたい。</li> </ul> <p>4 その他 連絡等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・養護教育センターの就学説明会について</li> <li>・全県調査について</li> <li>・市特協について</li> <li>・ことばを育む親の会より</li> <li>・校内研究について</li> <li>・吃音講習会と吃音親子サマーキャンプについて</li> <li>・パラレルシートについて</li> </ul>		
次回例会 9月12日	会場：高洲第三小学校	内容：10月授業研の指導案検討



小倉小学校 今関 裕恵先生より

## 『見る力』を育てるビジョン・アセスメント WAVES の紹介

(1) 読み書きを支える力の“土台”となる視覚関連スキルを調べる。

## (2) 概要

- ・見る力を幅広くチェックする検査とトレーニングドリル
- ・検査用紙、採点用紙、トレーニング用紙はコピー可。
- ・対象は小学1～6年であるが、テスト年齢より参考値として利用可。
- ・日本で標準化されており、視知覚、目と手の協応(全般)、目と手の協応(正確性)、視知覚+目と手の4つの指標で子どもを評価する。



18,000 円+税

監修:竹田 契一

著者:奥村 智人・三浦 朋子

## (3) 実施方法

- ・検査用紙コピーを用意。検査1～9まで行う。  
(各下位検査は1分～最大10分)
- ・検査1・2では、目と手の協応スキルについて、「速度」と「正確性」の2軸で測る。「速度早・正確性低」は衝動性が現れ、「正確性高・速度遅」は慎重さが現れる。それぞれ別の視点で指導・サポートが必要になる。
- ・実施中の観察ポイントとして、「手の動き」「視線の動き」「選択課題での回答」「覚え方(方略)」「グリッド線の有無による違い」などに注目するとよい。

## 【測定できる視覚関連基礎スキル】

- ・目と手の協応 (目と手を連動させ動かす力)
- ・眼球運動 (視線を正確に移動させる)
- ・視覚的注意 (大事な部分に注目できる)
- ・形態知覚・認知 (形のイメージ)
- ・空間知覚・認知 (位置・空間をとらえる)
- ・視覚性記憶 (見た情報を記憶する力)

## (4) WAVES のプロフィール表

- ・下位検査の評価点7以下、指数85以下、評価点の差3以上で弱さが疑われる。

(5) 事例紹介 A(支援学級) 読み飛ばし、図形の読み取り△、字形が整わない、衝動的、左利き

- 毎日10分の取り出し指導 目の体操、線なぞり、形うつし、ボールやお手玉など
- B(通級児) 不器用、文字の細かな部分が△  
目と手の協応が低い、筆圧弱(手首が浮く)  
→合理的配慮グッズの利用、走る・跳ぶ練習



## 笛穴ふさぎ

「ふえピタ」800円+税  
半透明のシールが補助

## 見やすい定規↓

「大活字」で販売



## その他

回しやすいなわとび、位取り表  
ゴムQの下敷、コンパス等

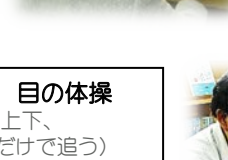
## お手玉タッチ

お手玉にゴムひもをつけ、ぶら下げる。  
合図でチョンとつづく。見えたら触る等

## ←走力アップドリル

NHK きわめびとより  
小脳に速く走るための体の動かし方をインプット!(6) 教材の作成 「目の体操」 竹ひご、球状の印(100均で購入可)  
「ナンバータッチ」 1～30までの数字カードボンドで  
つけるだけラミネート  
しておく  
丈夫

## ナンバータッチ

1から30までのカードをばらばらに並べる。  
「よーい、どん」で、1から順にタッチし、30まで何秒で終わるかチャレンジ!

## 目の体操

- ・1つの指標を左右、上下、斜め左右、1周(目だけで追う)
- ・2つの指標を交互に見る。
- ・焦点を合わせる。(手前・奥)
- ・寄り目 など



次回：9月例会

会場：養護教育センター  
(4研)内容：合理的配慮の事例 (※30部印刷して持ち寄り)  
講師：主任指導主事 久保木 修 先生

市教研 特別支援教育部会 8月例会

講演会

**実践に繋がるヒントがいっぱい！  
特別支援学校での性に関する指導**

**講師：高瀬 初美 氏**

**千葉県立柏特別支援学校 養護教諭**

**【プロフィール】**

・我孫子養護学校を初任校として、松戸養護学校、八千代養護学校、松戸つくし養護学校、松戸特別支援学校の勤務を経て、現在は柏特別支援学校で養護教諭として勤務されています。また、千葉大学看護学部非常勤講師、杏林大学保健学部非常勤講師、日本学校救急看護学会評議員、特別支援学校養護教諭キャリアアップ研究会副会長、思春期保健相談士としてもご活躍されています。

**〔最近の著書等〕**

- ・『特別支援教育にかかわる養護教諭のための本』（分担執筆）ジアース教育出版
- ・『養護教諭のためのフィジカルアセスメント2』（分担執筆）日本小児医事出版社
- ・『特別支援学校での性に関する指導』健康教室 他多数あり。

**日時** 平成29年8月22日（火）

**会場** 千葉市ハーモニープラザ イベントホール

住所 〒260-0844 千葉市中央区千葉寺町1-208

電話 043-209-8771

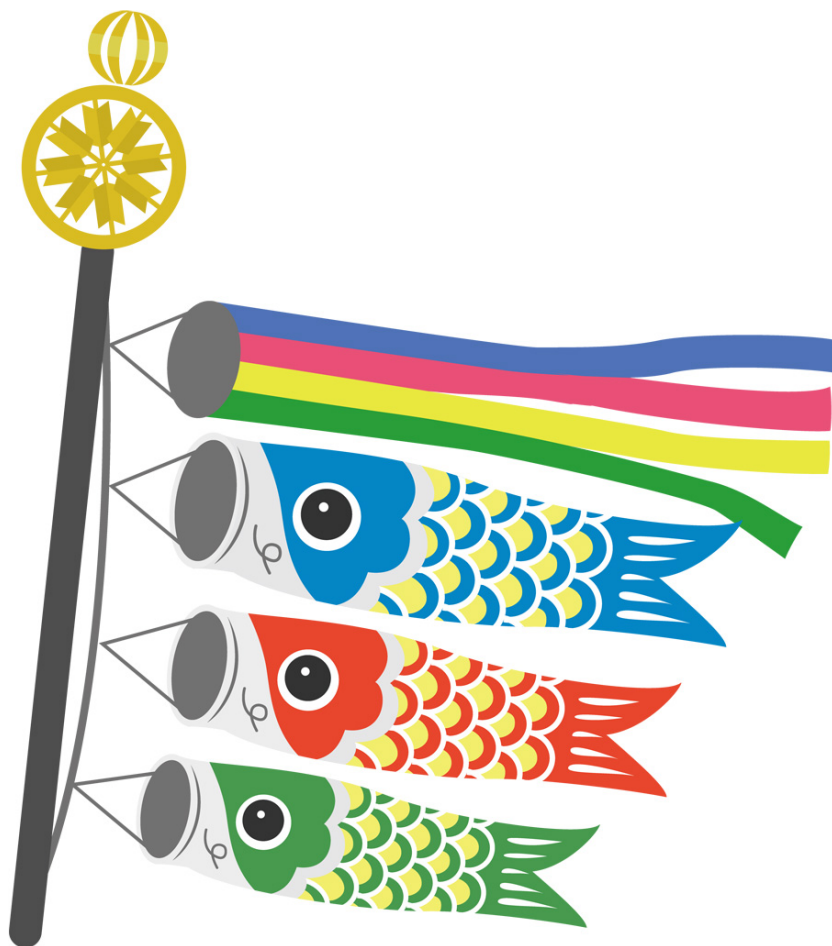
**持ち物** なし



※ 会場の駐車場の台数には限りがありますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。  
なお、近くに青葉の森公園の駐車場（有料）があります

# 特別支援教育部会

## 平成29年度 5月例会報告



# A-1 ブロック

5月例会		参加人数 60人	会場：千葉市教育会館
<p><b>1 ブロックテーマ</b></p> <p>「楽しい授業を作るための支援・指導の工夫」</p> <p><b>2 年間計画</b></p> <p>6/20 (火) 市立高等特別支援学校施設見学</p> <p>9/12 (火) 指導案検討 (10月授業分)</p> <p>10/17 (火) 授業研究 (真砂東小 向 純子先生)</p> <p>講師：都賀小 安川 晴信校長先生</p> <p>11/14 (火) 授業研究 (あやめ台小 榎本 光秀先生)</p> <p>講師：都賀小 安川 晴信校長先生</p> <p>1/16 (火) 消費者教育についての教材の研究、情報交換</p> <p>講師：庄司 佳子先生</p> <p><b>3 自己紹介・情報交換</b></p> <p>4～5人のグループごとに自己紹介・情報交換を行う。</p> <p><b>4 アンケートの記入</b></p>			
次回月例会	会場	6/20 (火) 市立高等特別支援学校施設見学 ※ 極力公共の交通機関をご利用ください。	
	内容	施設見学	

# A-2 ブロック

5月例会	参加人数 60人	会場：千葉市教育会館
------	----------	------------

- 1 自己紹介
- 2 年間活動計画の提案

例会	内容	会場
4月例会 4. 25	顔合わせ	千葉市養護教育センター
5月例会 5. 23	年間スケジュール案 施設アンケート	千葉市教育会館
6月例会 6. 20	☆図画工作 誉田小学校 山下幸子先生	誉田小学校
8月例会 8. 22	教育講演 県立柏特別支援学校 養護教諭 高瀬初美先生	千葉市ハーモニープラザ
9月例会 9. 12	施設見学	未定
10月例会 10. 17	☆授業研 体育 生浜東小学校 吉木克彦先生 講師 峰 成治指導主事	生浜東小学校
11月例会 11. 14	☆特別支援学校のグループ学習	第二養護学校
1月例会 1. 16	教材教具の紹介	未定

- 3 施設見学アンケート

次回 6月例会	場所：誉田小学校 内容：図画工作指導法 講師：山下幸子先生 ※持ち物等については、後日お知らせします。
---------	--------------------------------------------------------------

# Bブロック

5月例会	参加人数 42名	会場：千葉市教育会館
------	----------	------------

## 1 ○ブロックテーマ

「個に応じた、“表現力”を育てるための支援の在り方」

○県教研に向けたテーマ

「特別支援学級に在籍する生徒にとって、より効果的な進路学習の指導や支援について」



## 2 活動計画

例会	内容	会場	助言者
4月例会 4. 25	顔合わせ	養護教育センター	
5月例会 5. 23	年間スケジュール案 施設アンケート	千葉市教育会館	
6月例会 6. 20	授業研究 さつきが丘中学校 秋葉泰博先生	誉田小学校	教育支援課 主任指導主事 千葉直敏先生
9月例会 9. 12	授業実践の報告会	新宿中学校	市立養護学校 校長 木村辰治先生
10月例会 10. 17	授業研究	未定	市立養護学校 校長 木村辰治先生
11月例会 11. 14	講演 障害者年金などの卒業後の福祉について	花園中学校	市立養護学校 校長 木村辰治先生
1月例会 1. 16	県教研の報告 年間の研修のまとめ	草野中学校	市立養護学校 校長 木村辰治先生

## 3 6月例会 指導案検討

○「卒業した先輩の進路に学ぶ」

授業展開校：千葉市立さつきが丘中学校

授業者：秋葉泰博先生 佐々木祐先生

次回 6月例会	場所：千葉市立さつきが丘中学校 内容：授業校による授業実践・協議会 講師：教育支援課 主任指導主事 千葉直敏先生
---------	----------------------------------------------------------------

# Cブロック

5月例会	参加人数 32人	会場：市教育会館	
<p>1 29年度のブロックテーマと研修計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブロックテーマ 「通常の学級で生き生きと生活できる子どもの育成を目指して」</li> <li>・29年度の研修計画</li> </ul>			
	活動内容	会場	助言者
6月20日(火)	・授業研究① 院内小 ことばの教室 鶴岡 瑠璃子 先生	院内小学校	養護教育センター 指導主事 高瀬 景子先生
9月12日(火)	・指導案検討 花見川第三小 ことばの教室 八重樫 淑子 先生	未定	養護教育センター 指導主事 高瀬 景子先生
10月17日(火)	・授業研究② 花見川第三小 ことばの教室 八重樫 淑子 先生	花見川第三小学校	養護教育センター 指導主事 高瀬 景子先生
11月14日(火)	・事例検討会 口蓋裂に特化して事例 を持ち寄る。	院内小学校	こども病院 黒谷まゆみ先生
1月16日(火)	・事例検討会	高洲第三小学校	養護教育センター 指導主事 高瀬 景子先生
<p>2 その他、情報交換など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県教研・県特連発表者について</li> <li>・指導案のデータベース化について</li> <li>・千葉県ことばを育てる会より</li> <li>・入級手続きについて</li> <li>・養護教諭研修会の報告</li> <li>・各校の現状について</li> <li>・研修、吃音講習会について</li> </ul>			
次回例会 6月20日(火)	会場：院内小学校	内容 授業研究①	

# Dブロック

5月例会	参加人数：21名	会場：教育会館																		
<p><b>年間の研究計画作成</b></p> <p>1 自己紹介</p> <p>2 昨年度までの研究の経過</p> <p>3 今年度の研究について</p> <p>(1) 特別支援教育部会研究主題 「特別な教育的支援を必要とする児童・生徒の理解と指導のあり方」</p> <p>(2) Dブロックのテーマ 昨年度のテーマから引き続き 「子どもの行動の捉え方とよりよい支援のあり方」</p> <p>(3) 年間計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>日時</th> <th>内容</th> <th>会場</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6月20日</td> <td>ビジョンアセスメント「WAVES」の紹介 小倉小学校 今関 裕恵 先生</td> <td>高浜海浜小</td> </tr> <tr> <td>9月12日</td> <td>合理的配慮の事例紹介 各学校からの持ち寄り 養護教育センター 主任指導主事 久保木修先生</td> <td>養護教育センター</td> </tr> <tr> <td>10月17日</td> <td>千葉県発達障害者支援センター の紹介とその支援 発達障害者支援センター 所長 加瀬幹夫先生</td> <td>養護教育センター</td> </tr> <tr> <td>11月14日</td> <td>施設見学 または 事例検討</td> <td>(養護教育センター)</td> </tr> <tr> <td>1月16日</td> <td>年間のまとめ 次年度の方向性について</td> <td>教育会館209</td> </tr> </tbody> </table> <p>4 その他</p> <p>○ 市教研 HP のお知らせ</p> <p>○ 8月例会のお知らせ</p>			日時	内容	会場	6月20日	ビジョンアセスメント「WAVES」の紹介 小倉小学校 今関 裕恵 先生	高浜海浜小	9月12日	合理的配慮の事例紹介 各学校からの持ち寄り 養護教育センター 主任指導主事 久保木修先生	養護教育センター	10月17日	千葉県発達障害者支援センター の紹介とその支援 発達障害者支援センター 所長 加瀬幹夫先生	養護教育センター	11月14日	施設見学 または 事例検討	(養護教育センター)	1月16日	年間のまとめ 次年度の方向性について	教育会館209
日時	内容	会場																		
6月20日	ビジョンアセスメント「WAVES」の紹介 小倉小学校 今関 裕恵 先生	高浜海浜小																		
9月12日	合理的配慮の事例紹介 各学校からの持ち寄り 養護教育センター 主任指導主事 久保木修先生	養護教育センター																		
10月17日	千葉県発達障害者支援センター の紹介とその支援 発達障害者支援センター 所長 加瀬幹夫先生	養護教育センター																		
11月14日	施設見学 または 事例検討	(養護教育センター)																		
1月16日	年間のまとめ 次年度の方向性について	教育会館209																		
次回：6月例会	会場：高浜海浜小	内容：ビジョンアセスメント「WAVES」の紹介																		